

沖縄 2014 年 2 月

右城 猛

まえがき

孫の航希が生まれて 4 ヶ月が過ぎた。2 月 8 日から 3 泊 4 日の日程で娘の和恵一家と旅行をすることにした。一緒に旅行は、1 年 5 ヶ月前のグアム以来である。行き先は沖縄。

ホテルは、恩納村の富着ビーチのそばにある「カフーリゾートフチャクコンドホテル」。コンドスタイルの部屋に 3 連泊し、ここを拠点にレンタカーで移動して、古宇利島、美ら海水族館、琉球村などを見物する予定。すべて和恵の計画。

出 発

私と家内は、高松空港 11 時 30 分発の ANA457 便、娘たちは羽田空港 11 時 5 分発の ANA131 便に搭乗し、那覇空港で合流する予定。

昨夜来の雪で高知道の南国・川之江間が通行止めになっていたの、高知駅 7 時発の列車しまん 4 号に変更する。高松駅に着いたのは 1 時間 10 分遅れの 10 時 30 分。



最近では四国で積雪を見ることは滅多にないが、昔はこの程度の雪は珍しくなかった。わずか数センチの積雪で列車の運行にこれほど影響するとは意外であった。JR 四国の経営状態は良くない。合理化によって保守点検がおざなりにされているのではないだろうか、昔の保線

技術は継承されているのだろうか。

高松駅から空港までは路面バスで 1 時間かかる。飛行機に間に合わない。ネットで調べると、高松空港発の ANA457 便は 3 時間遅れの 14 時 30 分発に変更、羽田発の 131 便は「出発地悪天候のため天候調査中」という表示。運航するかどうか検討中ということ。それでも和恵たちは行く気満々。例え 1 日遅れたとしても沖縄に行くという連絡が入った。天気予報では、東京は夜にかけてさらに雪が降る。出発が遅れば遅れるほど状況は悪くなる。心配していたが、15 分遅れの 11 時 20 分に飛ぶことが決まったと連絡があり、ホッとした。実際に飛行機が羽田を飛んだのは、さらに 1 時間遅れて 12 時半であった。

高松発の 131 便も羽田からの到着が遅れたため、出発ができたのは 15 時 30 分であった。

カフーリゾートフチャクコンドホテル

沖縄に先に到着していた朋男さんたちが、レンタカーで空港まで迎えに来てくれ、恩納村富着のカフーリゾートフチャクコンドホテルに到着したのは 19 時。すでに暗くなっていた。

ホテルの周囲の立木にはイルミネーションが飾られてとてもきれい。



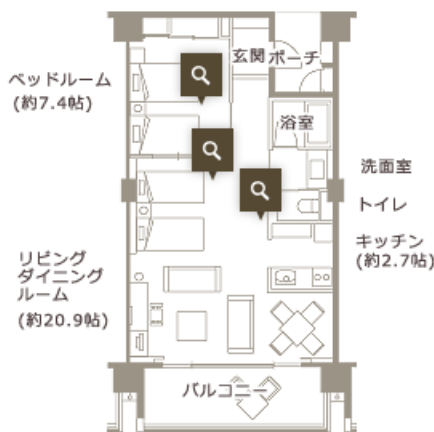
高級マンションのようなカフーリゾートフチャクコンドホテル(9 日朝)

2010年に完成したこのホテルは、ホテル棟とコンドミニウム棟からなる12階建ての高級マンションのような巨大ホテルである。

私たちが宿泊したのは、ホテル棟のスタンダードフロアーにあるラグジュアリースタイルの部屋。



ラグジュアリースタイルの部屋(ホテルのHP)



部屋の間取り。80m²と広い。(ホテルのHP)



リビングルームで一休み(8日19時40分)

リビング・ダイニングルーム、ベッドルーム、キッチンがある。まるで高級マンション。電話をすれば、ホテルのレストランから料理を配達してくれる。子供が騒いでも他の客に迷惑をか

けることがない。幼児がいる家族には最適。宿泊客には我々のような幼児連れ家族が多かった。



ビュッフェ形式の朝食(9日)



バルコニー。背後に富着海岸が見える(9日)



ホテルの前で(9日朝)



ルームサービスを頼んで夕食(9日)



ホテルのバルコニー(10日10時30分)



ロビーで新郎新婦が写真撮影(10日朝)



ホテルの玄関は、夜はイルミネーションが飾られてきれい。(10日夜)

古宇利島



今帰仁村(なきじんそん)古宇利島(こうりじま)と名護市屋我地島(やがじじま)を結ぶ古宇利大橋。無料の一般道路では日本一長い。

正面奥に見える山の上の白い塔は、今年の11月に完成したばかりの古宇利オーシャンタワー。

古宇利島は、周囲8kmの円形の島。漁業が盛んで特産品はウニ。



島に入って最初に目に入ってきたのが「YOSHIKA 本店」の標識が掲げられた今にも壊れそうな荒ら屋。これが美味しい海鮮丼を食べさせてくれる超有名なレストラン。



「顔ハメ看板」でさっそく記念撮影。



ブルーシールアイスクリームは、アメリカ生まれ沖縄育ち。アメリカンレシピをベースに日本の国土に合わせた人気のアイスクリーム。食べないわけにはいかない。



あいにくの小雨日和。祐希は雨靴とカッパで古宇利大橋を見学。



古宇利大橋は、2004年に完成した橋長1,960m、25径間のPC橋。航路部の4径間は連続ラーメン形式(支間80m)。その他は支間60mと80mの連続箱桁形式である。

基礎工は、ラーメン部が鋼管ウェル基礎。その他は鋼管杭基礎。

祐希は将来、立派な土木技術者になるだろうと期待して連れてきたが、興味があるのは浜の砂だけ。



古宇利物産センターでは、たくさんの種類のトロピカルフルーツが売られていた。ホテルに持って帰って食べられる完熟状態の「カニステル」「アテモヤ」「パッションフルーツ」を一つずつ買う。パッションフルーツ以外は初めてであったが、どれも美味しい。



古宇利オーシャンタワー。



入場券売り場からタワー入り口までは無人搬送カートで移動。



タワーの入り口で有料の記念撮影。



1階は貝の展示館。展示館には世界の貝1,500種類、1万点以上が展示されている。



タワーの2階と3階は展望ルーム。古宇利大橋がよく見える。

大家(うふやー)



「大家・うふやー」は、明治時代の後期に名護市中山に建築された安里家を2001年に修復した建物。沖縄そばと琉球料理の店として大人気。



明治時代後期の沢氏(たくし)家の移築。



ANA スカイホリデーのクーポン券を利用して「沖縄そば定食」を食べる。既に 15 時になっていたが、まだ多くの客が順番待ちの状態であった。

沖縄そばは、「うどん」と「ラーメン」の中間の食感。琉球在来豚アグーの血を引く沖縄黒豚「やんばる島豚」がふんだんに入っている。これが旨味を出している。

沖縄そばを食べるため大型観光バスや「わ」ナンバーのレンタカー客が大勢、山の中の一車線の狭い道を通ってここにやって来ている。この人気には圧倒された。

ナゴパイナップルパーク



ナゴパイナップルパーク



パイナップルパークの中は、無人搬送カートで見学。足腰の悪い年寄りでも、雨天でも問題ない。



カートでの見学を終えて外に出るには、土産物店を通らなければならない。ここは、数種類のパイナップルの試食コーナー。この他に、パイナップルワインやジャースの試飲コーナー、お菓子の試食コーナーがあった。試食だけで満腹になる。

沖縄美ら海水族館

沖縄本土復帰を記念して沖縄国際海洋博覧会が開催されたのは 1975 年（昭和 50 年）。その博覧会施設を受け継いで 1979 年（昭和 54 年）にオープンした沖縄海洋水族館は、老朽化したことから 2002 年に解体されている。

現在の「沖縄美ら海水族館」（おきなわちゅうらうみすいぞくかん）は、2002 年（平成 14 年）11 月 1 日に新しくオープンした施設。

2005 年（平成 17 年）にアメリカのジョージア水族館が開館されるまでは世界最大の水族館であった。



国道 449 号を走って美ら海水族館に行く途中にある瀬底大橋。



入場する前に有料の記念撮影。



12 時、美ら海水族館に到着。



ヒトデやナマコに触れるコーナー。臆病者の祐希は触ることができない。



早速、記念撮影。



美ら海水族館の水槽には、たくさんの魚が飼育されている。



エスカレーターに乗って入場口へ。



大水槽『黒潮の海』。水族館の 1 階から 2 階

を貫く大水槽の規模は、長さ 35m×幅 27m、深さ 10m。大水槽の亚克力パネルは高さ 8.2m、幅 22.5m、厚さ 60cm。2008 年（平成 20 年）にドバイ水族館がオープンするまでは世界最大であった。



水槽では大きなジンベ鯨が三匹泳いでいた。



カフェ「オーシャンブルー」で大水槽を泳ぐジンベ鯨を観ながら休憩。祐希は疲労困憊。



祐希は爆睡。



大水槽を泳ぐ魚を真下から眺めることもできる。



16時30分、中ら海水族館を出て、夕食を予約している万座のANAホテルに向かう。

ANA インターコンチネンタル万座ビーチリゾート



ANA インターコンチネンタル万座ビーチリゾートは、万座毛の対岸に建つ白亜の総合リゾートホテル。昨年が開業 30 周年であった。

ANA スカイホリデーのクーポン券を利用して夕食を予約。



ホテルのロビー。いかにも高級リゾートホテルという贅沢なつくり。



ロビーから眺めた外の景色。万座毛が見える。



ディナーが始まる 18 時までロビーで休憩。



ホテル 1 階にあるシアターレストラン「オーキッド 琉球料理」でビューフェ形式の沖縄郷土料理を食べながら、琉球芸能ショーを堪能。

最初の踊りは、古典女踊り「四つ竹」。琉球花笠を被り紅型打掛(びんがたうちかけ)を着た女性が、四つ竹と呼ばれるカスタネットのような楽器をカチカチと打ち鳴らし、艶やかな琉球王朝の美を表現する。



二番目の演目は、琉球獅子舞。踊りを終えた獅子が、フロアーに降りてきて観客にサービス。祐希は獅子が怖くて顔がこわばっている。



両手を挙げて陽気に踊る「カチャーシー」を舞台に上がって一緒に踊る。両手を挙げて、サトウキビが風でなびいているように左右に手を振るだけの単純な踊り。

沖縄では、結婚式、祭り、祝い事の最後は必ずカチャーシーで盛り上がる。



太鼓やパーランクーを持って踊るエイサー。



祐希は踊り子にも大もて。



パーランクーを上手に叩いて褒められた。



沖縄3日目になると、4ヶ月の航希もすっかり私になつき、あやすと笑顔を振りまくようになった。これを見ると祐希は焼き餅を焼き出す。

琉球村

沖縄県内に残存する古い民家7軒を移築して、琉球の伝統文化、芸能、自然などを後世に伝えるために設置されたテーマパーク。

2007年に国の有形文化財に登録された赤瓦の古民家の前では琉球舞踊や演武を鑑賞でき、また別の家では機織機を使つての伝統的な染織や陶芸、三線（さんしん）の演奏などを体験できる。



駐車場の横は、沖縄の駅チャンプルードーム。



ドーム内には土産物店などが並んでいる。チャンプルー劇場では、三線と太鼓を叩きながら琉球民謡のライブが行われていた。



琉球村の入り口。ここからは有料。ANA クーポンを利用して入場する。



いたるところに魔除けの置物シーサーがある。



琉球の古い民家。



屋根の上には魔除けのシーサー



天候の関係で、琉球芸能ショーがハブセンターで上演された。



先ず、琉球王国の国王・王妃・三司官が入場。



エイサーの踊り



続いて、人々の幸せや五穀豊穰、村の繁栄をもたらしてくれる神様「彌勒(みるく)」の入場。



最後は観客も一緒になってカチャーシーを踊る。



彌勒が琉球王国の繁栄と観光客の安全と幸運を祈願。



親子で着色した星砂の瓶詰めを体験



琉球舞踊「四つ竹」踊り。



山羊に近寄れない祐希。意外と勇気がないかも。



ツリーハウス「キジムナーの家」。キジムナー（キジムン）とは、沖縄諸島で伝承されてきた伝説上の妖怪で、樹木（一般的にガジュマルの古木であることが多い）の精霊。



ガジュマルの妖精「キジムナー（キジムン）」



琉球村を満喫する祐希

あとがき

二人の孫を連れての初の家族旅行であったが、天候と交通には恵まれなかった。3日間小雨と曇りが続いた。沖縄最後の日になって快晴。気温も高く、沖縄を実感できた。来がけは、積雪のために列車と飛行機のダイヤが大幅に乱れた。天気だけはどうしようもない。

帰りは、那覇空港 14 時 10 分発の予定であった飛行機が故障。搭乗していた飛行機から降りて別の機材に乗り換え、出発は 15 時 45 分に変更。実際に離陸したのは 2 時間遅れの 16 時 10 分であった。

幸いにも、高松空港からユメタウン高松までの空港リムジンバス、ユメタウンから高知までの高速バスは待ち時間なしでスムーズに乗車できた。20 時には高知一宮に着いた。

2 歳と 11 ヶ月の祐希、4 ヶ月半の航希を伴っての旅は、いつものハードスケジュールとは異なるゆったりした旅行であった。

ホテルのチェックアウトの際、いつもの習慣で、クレジットカードで精算をしてしまった。帰高して家内に指摘されてはじめて、8000 円分のクーポン券を使わなかったことに気がついた。もったいないことをした。



沖縄都市モノレール「ゆいレール」



快晴の那覇空港